

成果の説明書

(氏名) 津曲達也	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎：プログラミング・数学」、「データサイエンス基礎：AI 概論」、「グループ研究Ⅱ」を担当した。・ 大学院スペシャルセミナー「データ分析実習プログラム」のアンケートデータの分析の授業回を担当した。・ 数理・データサイエンス・AI 学修プログラムにおける PBL 科目『データサイエンスによる課題解決』、『データサイエンスによる実社会課題解決』の検討・立ち上げに関わった。 <p>(2) 研究</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域密着型教育を実施している大学の研究室を対象として、地域密着型教育で学んだスキルと卒業後の仕事での活用場面の関係を分析した。 <p>【論文】</p> <p><u>T.Tsumagari, Y.Nakazato, T.Tsumagari (2025) A Study of the Relationship between Learning in a Professional Seminar and its Workplace Application for Graduates of a Social Sciences Laboratory, vol.5, pp.1-7.</u></p> <p>中里陽子・津曲達也 (2026) 「社会科学系学部研究室での学びの卒業後の教育効果に関する事例研究(第2報)ー卒業年数の影響検討ー」『鹿児島大学総合教育機構紀要』vol.9, pp.1-15.</p> <ul style="list-style-type: none">・ 高崎経済大学の初年次生を対象に、データサイエンスへの興味関心と苦手意識が「データサイエンス入門」の受講意図との関係について分析した。 <p>【論文】</p> <p>高橋美佐・田戸岡好香・藤岡慧・津曲達也 (2026) 「データサイエンス学習に対する意欲と苦手意識：大学初年次生の学部間比較」『産業研究』61(1), pp.37-49.</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学内で採択された研究奨励費において、「データサイエンス入門」履修者を対象としたデータサイエンスに対する興味関心等についての調査を行った。 <p>(3) 社会活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム関東ブロックが主催する産学連携交流会に参加し、本学の数理・データサイエンス・AI 学修プログラムの紹介および企業とデータサイエンス人材や産学連携に関する意見交換を行った。あわせて、同交流会を契機として株式会社池田製作所を訪問し、施設見学および事業戦略・人材ニーズに関する情報収集を行った。・ 17th International Conference on Data Science and Institutional Research (DSIR 2025)のプログラム委員を務めた。・ 聖学院大学総合研究所「基礎自治体マネジメント研究会」の研究者として、「自治体職員のためのアンケート調査」(2026/02/14)の講師を務めた。	

2 その他の事項

- 学内のSD（職員向け研修）において、講師として生成AIに関する講習を行った。
- IR支援プロジェクトに従事した。
- 基礎教育センター数理・データサイエンス部会に所属し、数理・データサイエンス・AI学修プログラムの自己点検を行なった。
- 『文系学部学生のためのデータサイエンス教育の最適化：大学入学前の経験の影響分析』（若手研究）において、数理・データサイエンス・AIコンソーシアムが策定したモデルカリキュラム（リテラシーレベル）に示された到達目標ごとに、学生が学習内容を具体的に思い描けるか（どのような知識・スキルを指しているかを想起できるか）を調査した。
- 文部科学省「数理・データサイエンス・AI認証プログラム認証制度」（リテラシーレベル、応用基礎レベル）で採択された大学の教育プログラム（申請書、自己点検・評価報告書、シラバスや教材等の調査を行った（継続中））。

3 次年度以降の計画・抱負

- 「データサイエンス入門」履修者に対する興味関心に関する調査の分析をすすめ、論文としてまとめる。
- 『文系学部学生のためのデータサイエンス教育の最適化：大学入学前の経験の影響分析』（若手研究）を進める。
- 高崎経済大学におけるデータサイエンス教育推進に向けて、データサイエンスやその教育の最新動向や、その他関連調査をもとに、教育や教材づくりを進める。
- 学内業務における学内外のデータ活用の推進に務める。